

震災復興版Gyro(ジャイロ)

# がんばろう福島

～ Voices from Fukushima ～



当協会HP をご覧ください。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から丸3年が経ちました。福島県は原発事故の収束の見通しが立たず、現在も多くの方が県内外での避難生活を強いられています。

(公財)福島県国際交流協会では、震災直後より当協会広報紙「ジャイロ」の震災復興版として「がんばろう福島」を発行し、福島県の現状や復興に向けた取り組み、外国出身県民の声などを紹介しています。

※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。

## 福島の風景

### 大切な人を想う 追悼復興祈念式

3月11日(火)、福島市の福島県文化センターにて県主催の「東日本大震災追悼復興祈念式」が行われました。追悼復興祈念式には遺族など多くの関係者が出席し、地震発生時刻の午後2時46分に黙とうを捧げました。

遺族代表による追悼の言葉や、県内の高校生が作った追悼詩の朗読、県民の被災体験の思いを盛り込んだメッセージなどが世界に向けて発信されました。出席者はあたらめて亡くなられた方への哀悼と福島の復興を祈りました。(福島市 2014.3.11 撮影)



追悼復興記念式の様子



### いわき市観光の再興を願う 塩屋埼灯台

いわき市の塩屋埼灯台は、東日本大震災からの修復工事が続いていましたが、2月22日(土)、約3年ぶりに一般公開が再開されました。この再開はいわき市観光の再興の後押しとなり、希望の光となることを期待されていますが、灯台の岬を挟むように位置する薄磯地区と豊間地区は、いわき市で津波被害が最も大きかった地域で、現在も海岸堤防の災害復旧工事や土地区画整理が続いており、立入禁止となっている区域もあります。(いわき市 2014.3.4 撮影)

通路や階段も修復され、安全に  
通行できるようになった灯台

### 東日本大震災 3周年祈念のつどい

フィリピン出身者でつくる「ハワク カマイ フクシマ」のメンバーが、震災から丸3年になることに合わせて、避難を余儀なくされ現在もお仮設住宅で暮らしている人々を元気づけようと、3月9日(日)に飯館村民約90世帯が暮らしている伊達東仮設住宅を訪れました。

集まった村民の方々は、日本の味とはちょっと違うフィリピン風のスープや春巻きなどを食べながら、「ハワク カマイ フクシマ」のメンバーと一緒に福笑いやスリッパ飛ばし、カラオケ、ダンスなどで楽しいひとときを過ごしました。

(伊達市 2014.3.9 撮影)



参加者の手拍子に合わせて歌う  
メンバーたち



出演者・来場者全員で復興支援  
ソング「花は咲く」を合唱

### 3.11 ルワンダふくしまチャリティイベント

NPO法人ルワンダの教育を考える会主催のチャリティイベントが、3月11日(火)、二本松市の福島県男女共生センターで開催されました。代表の永遠瑠・マリールイズさんと、ルワンダ出身の音楽家ジャンポール・サンプトウさん、アロン・ニトウンガさんが、「国境を越えて音楽とつながるタベ」と題し、音楽を通じて心をひとつにしようと歌を披露しました。また、二本松市の杉田小、二本松南小、二本松北小の児童で結成されたスペシャル合唱団による「しあわせ運べるように」も披露され、来場者の心を癒しました。(二本松市 2014.3.11 撮影)

## 福島に暮らす人々の声

### 鷲尾 麗さん（郡山市在住・震災時は川内村在住 中国出身女性）

川内村に住んでいたのが避難生活を余儀なくされました。郡山市に避難することとなり、震災前まで一緒に暮らしていた夫の両親と離れて生活することになってしまいました。また、夫が単身赴任となり、現在は小さい子ども3人との生活になっているため、慣れないことがずっと続いています。早くフルタイムでの仕事を再開させたいと思っていますが、ライフバランスがうまくとれず困っています。ただ、郡山市で暮らすようになってから、子どものお母さん（ママ友）や同郷の友人がたくさんできる機会に恵まれました。震災を経験したことで、助け合うことや人間関係の大切さに気づいたからだと思います。支えてくれた方に感謝して、今後も絆を大事にしていきたいと思っています。

### バトエルデネ ラムヤンジンさん（福島市在住 モンゴル出身女性）

東日本大震災直後の2011年春に福島大学へ進学しました。その年の同じ学部の留学生は7人しかおらず、最初は心配や不安だらけの学生生活でした。大学にはモンゴルで同じ高校だった先輩がいて常に親身に接してくれるのでとても助かりました。また震災ボランティアとして仮設住宅で暮らす方たちと触れ合ったことで、福島での学生生活は自分の人生でとても貴重な経験となると前向きに考えられるようになっていきました。また、福島県国際交流協会の事業に参加しモンゴルについて紹介したことで、自分の国のことをもっと知りたい、また正しい情報を伝えていきたいと思うようにもなりました。残り1年となった学生生活では、福島で暮らす今の自分にできることを意識して、有意義に過ごしたいと思っています。

### 丹野 ジュリエットさん（いわき市在住 フィリピン出身女性）

東日本大震災後、いわき市内に複数あったフィリピン出身の仲間同士の小さなグループをひとつにまとめ、「いわきフィリピンコミュニティ」を立ち上げました。現在約50名の仲間がいて、月に一度集まり交流しています。生活面や子どものこと、言葉の問題などのお互いの悩みを相談することが多く、仲間内での情報交換や共有もできています。

最近はいわき市内の公民館で小学5・6年生を対象とした英語講座や有識者を招いたワークショップ開催などの活動をしています。それぞれ一人一人の力は小さくても、仲間が集まり協力し合うことで可能性は広がると思うので、今後も継続して活動ができればと考えています。

## 福島県内各地の環境放射能測定値（暫定値）（福島県 HP から抜粋）

福島県 HP では、県内各地の環境放射能測定値（暫定値）を日本語、英語、中国語で、県国際交流協会 HP では、それらに加え、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で随時更新しています。

<http://www.worldvillage.org/>

単位：マイクロシーベルト/時間

日時	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
（平常値）	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
2014.3.20 9:00	0.28	0.15	0.11	0.07	0.04	0.13	0.08
測定装置	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約63km	西 約58km	西南西 約81km	西 約98km	西南西 約115km	北 約24km	南南西 約43km

※測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所南側広場、郡山市は郡山合同庁舎東側駐車場、その他の市町は各合同庁舎の駐車場です。  
※平常値は、県内の平成21年度放射線レベル調査結果です。

## お知らせ

### ○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:00
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日 10:00～14:00  
※第4・5木曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316（専用） E-mail：ask@worldvillage.org（専用）

### 発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>